

(様式第4号)

上田市上下水道審議会 会議概要

1 審議会名	平成30年度(第6期)第3回上田市上下水道審議会
2 日時	平成30年12月11日 午後2時から午後4時10分まで
3 会場	真田地域自治センター 3階 講堂
4 出席者	遠藤委員、大口委員、梶村委員、金井委員、甲田委員、高寺委員、高橋委員、田中委員、西澤委員、布施委員、堀内委員、本間委員、松田委員、松本委員、山口委員、山寺委員、山本委員
5 市側出席者	竹花上下水道局長、城下経営管理課長、滝澤サービス課長、小井土上水道課長、三浦下水道課長、越浄水管理センター所長、藤極丸子・武石上下水道課長 サービス課 嶋田課長補佐兼料金担当係長 上水道課 関課長補佐兼施設整備係長 下水道課 大熊施設係長、藤井課長補佐兼下水道維持係長、田中課長補佐兼下水道建設係長、下水道建設係依田主査 (以下経営管理課) 黒岩課長補佐兼経理担当係長、増田補佐兼経理担当係長、青井庶務係長、庶務係清水主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成30年12月12日

協議事項等

1 開会

2 会長あいさつ

- ・ 前回の審議会で提示された「上田市水道ビジョン(案)」に対する意見・質問に対する回答と「上田市下水道ビジョン」の原案等について審議を進めていきたい。

3 議事

(1) 上田市水道ビジョン(案)についての意見・質問に対する回答について

○事務局より資料1、資料2に基づき前回審議会等での意見・質問に対する回答について説明

- ・ 委員からの意見・質問なし

(2) 上下水道料金徴収等業務包括民間委託の検証について

○事務局より資料3に基づき説明

- ・ 委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(会長) 気になったのは、良いことばかりで悪いところは何もないのか。

(事務局) 細かな問題点は日常的にはあったが、その都度改善していくような積み重ねを行ってきているので現在のところ問題はない。

(委員) 民間委託について、公共料金の徴収にあたり、中には支払いを渋るとか料金について高い等の理由で支払わないという話も聞く。今の説明を聞いていると全とうまくいっているということだが、受託された側の取り組みや実態を本当に市側が把握しているのか。

(事務局) 日常的には料金の支払いを渋る方とか経済的な理由で支払えないという方もいる。水道なので支払われない場合、最終的には給水停止という手段を講じる場合もある。ただし、それには3カ月位の

折衝期間があり、その間に何度も直接やり取りを行いながら、それでも支払われない場合は最終的に水を止める。その後、水を止められて慌てて支払われる方もいるし、それでも経済的な理由で支払えない方には分納という方法も取っている。本当に手間暇かけて対応している部分もある。水道は給水停止ができるが、下水道は止めることができない。下水道は公債権であるため、最終的には差し押さえが可能な債権である。本当に支払えるのに支払わない方については差し押さえという手段を講じている。そういった部分については民間委託できない部分になるため、上下水道局で直接対応している。実際にはいろいろとあるが、そういったことを受託企業と上下水道局で連携し解決に努めている状況である。

【休憩】

(3) 上田市下水道ビジョン（案）について

○下水道に関するDVD視聴後、事務局より事前送付した「上田市下水道ビジョン（案）」（冊子）及び追加資料に基づき説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(会 長) 95 ページのエリアマップの色分けについて説明いただきたい。

(事務局) 赤で囲んだ部分については純然の公共下水道、それにし尿処理施設（広域）から公共下水道施設への投入を見込んでいる。それに関連し、農業集落排水施設の小規模処理区を公共下水道に統合ということで青い囲みとしている。その後段階的という意味合いで紫の囲みについては農業集落排水同士の接続統合を進めていきたいという長期的な部分となる。二点鎖線の中に中規模処理区（特環）と小規模処理区（農集）があるが、中規模処理区の菅平や西内のように処理場として残っていく場所や、場合によっては武石方面、現状では残していきたいと考えているが単独農集の処理施設として残していきたいという意味合いを記載している。

(会 長) 市民の方にも見て分かるような表記をしていただき、できれば注釈をいれてほしい。

(事務局) 承知しました。凡例等追加します。

(委 員) ① 一般の方は費用について関心があると思うので、124、125 ページの財政投資計画について、自分たちが納めている下水道の使用料はどういうところにどのくらいの比率で使われているかを円グラフ等で表示をしてもらえると分かりやすいのではないかと。

② 最近国会でも賑わせているコンセッション方式というものを、十年間の計画であるこのビジョンでは取り入れていくのか、取り入れていかないのかを分かりやすく表記してもらいたい。

(事務局) ① 本ビジョン（案）では建設に関する投資計画、下水道の維持管理に関わる部分としてということで掲載している。一番わかりやすいところで財政の部分であったり、皆様に納めていただいている下水道の使用料の用途については付属の資料等として記載していくように検討したい。

② 水道法の改正という話がありましたが、その前にPFI法ということで下水道施設についても民間の参入が始まっており、浜松市では下水道事業のコンセッション方式を導入しているということで一番は経費的な部分での削減であったり、スピード感をもった改善にもつながっているということである。やっていくかやらないかの判断はこの段階では難しいところだが、民間活力の導入というくくりの中では当然考えていかなければいけない。可能性とすればそういったことはあるということでは工夫をしながら盛り込んでいきたい。

(委 員) 農業集落排水施設を公共下水道施設に統合する理由を記載してほしい。

(事務局) 106 ページで農業集落排水施設の統合について記載しているが、さわりの部分での説明しか記載してないので、施設が減ることによる効率化、経営的な観点、人口減少に伴う施設の有効利用という観点を分かりやすく表現をしたい。

(委 員) ① 上田市の行政人口の減少ということで、上田市独自推計値で算出しているが、上田市独自推計値と国立社会保障人口問題研究所の数字が大きくかけ離れているが、どちらが現実として取り上げるのか。人口動態そのものが事業を大きく左右するので、きちんとやってほしい。

② 下水道の場合、観光人口の推移を取り入れているが、観光人口は水道も同じこと。上下水道局と言っているが上水道と下水道と問題が分かれているのか、それらをひとつのテーマとしてやっているのかがわからないので整理をしていただいて上下水道という考え方でいかないとこの先よく分からない部分が出てくるのではないかと。

③ 今の清浄園の場所にごみ処理場が建設された場合、清浄園はどこに移るのか。そういった場合の投資計画があやふやなものになってしまうと思われる。その点については検討しているのか。

(事務局) ① 25 ページの行政人口の予測は上田市版の人口ビジョンの数字を使用しており、水道ビジョンも同じものを使用している。2035年の人口137,227人に対し国立社会保障人口問題研究所の推計では128,382人と約8千8百人減るだろうと予測している。どちらの数字に合わせるかは悩ましいところだが、関連する第二次上田市総合計画にも上田市の人口ビジョン等反映させていく部分もあり、人口減少に伴う施策を実現させる出生率の向上、移住定住等の対策も実施している中で人口ビジョンの数値を使用している。どちらが正しいかは非常に難しいが、市が一丸となって人口減少対策に取り組んでいくという姿勢という意味で人口ビジョンの数値を使用したい。

② 観光人口について、上水道、下水道も観光客が来ることによって使用量、処理量は連動して増えていく。26ページに観光人口の推移としてグラフ等で表記し、27ページの観光人口の推計に記載しているが、将来の観光人口は現況並みと推計されるとしており、飛躍的に増えることはないが、極端に減ることもないという中での予測とした。水道ビジョンと摺合せしながら調整を図りたい。

③ 清浄園について21ページで記載している。清浄園の場所には資源循環型施設を建設したいと広域連合の方で現在進めている。そちらに資源循環型施設を建設した場合、清浄園の施設をどこかに移さなくてはいけなくなり、生活環境部で対応しているが、候補としては下水道処理施設の中に設置をしたらどうかと調整が始まっており、地元への協議もお願いをしている。将来的に農業集落排水施設を公共下水道に統合してくことにより、し尿の処理規模自体は小さくなると推計しているが、何らかの施設は造らないといけない。それに関連し投資計画の部分もあるが、公共処理場の施設として稼働に余裕がある。財政計画に反映しなければいけない部分もあるが、し尿投入施設についてはビジョンの中でも反映をさせながら投資計画も検討している。

(委員) ③について) 今話があった案がA案だとするとB案もあるのか。

(事務局) 清浄園の機能とすれば下水道処理場内に設置することが一番妥当であると考えている。下水道ビジョンの中で踏み込んだ中身までは検討していない。想定はしているが、何時というところまではっきりしていないので、ビジョンとしては加味しながら作り込みはしている段階。

(会長) 下水道ビジョンの中に掲載されている図面や表で数字や言葉が読み取れないところがあり、市民が見ても分かるようにしてもらいたい。(2ページ、20ページ等)

(委員) 106ページの農業集落排水施設の統合の中でマンホールポンプの削減を進めるとあるが、農業集落排水のポンプアップの事を言っているのか。マンホールポンプとは何か。

(事務局) 下水道は基本的に自然流下が大前提であるが、上田市は起伏のある地形で河川等もある。河川を横断する際、河川の下を通す場合下水道を深くしないといけなくなり、管渠を布設するにも費用が掛かってしまうため、場所によっては各家庭から出された排水等を一旦マンホールに貯め、ポンプを設置し圧送して次のマンホールまでもっていっている。上田市内にマンホールポンプが公共下水道、農業集落排水合わせて267か所ある。これらに非常に電気代がかかり、維持管理業者による点検費用の負担もずっと続けていく必要がある。経費削減の意味合いでは自然流下が可能なところは農集統合等の際、検討を行うべきであると考えている。

4 その他

上田市水道ビジョン(案)についての意見・質問に対する回答(下水道関連について)

○事務局より資料1に基づき審議委員から出された意見・質問に対する回答について説明

・委員からの意見・質問なし

○事務局より事務連絡

パブリックコメントの実施について
次回審議会日程等について

5 閉会

以上